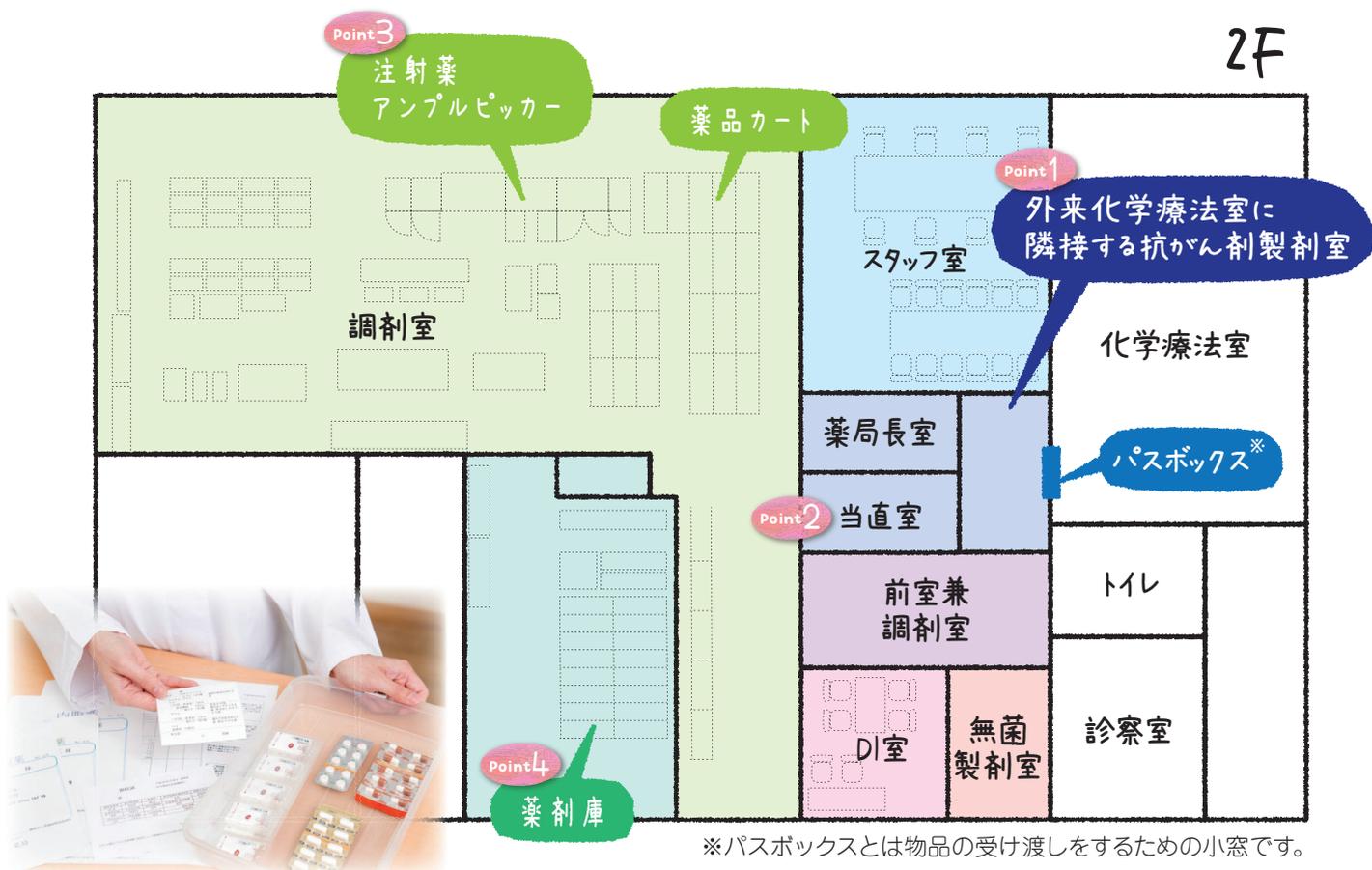


## シームレスな薬剤部へ

現病院では、内服薬を主に扱う「調剤室」と注射薬を主に扱う「注射室」を別々の部屋としていましたが、新病院ではワンフロアで構築しています。投与経路が異なるとはいえ、内服薬も注射薬も医薬品であり、シームレスな薬剤業務を行う上でワンフロアであるメリットが大きくなると考えています。



## 薬剤部の特徴

### Point 1 外来との連携強化

新病院の薬剤部は外来フロアと同じ2階フロアに設置されます。薬剤部受け取り窓口を作成する予定であり、必要に応じ外来患者さんへの指導も行えるようになります。抗がん剤を調製する場所と外来化学療法室はパスボックスでつながれており、抗がん剤提供がスムーズになり、患者さんをお待たせする時間が短くなります。

### Point 2 労働環境の改善

現病院には薬剤部の当直室がありませんでしたが、新病院では部内に部屋を設置し、当直時間中の労働環境を整えます。また、スタッフ室も一室設け、休憩やミーティングに活用します。



## 薬剤部の特徴

Point 3

効率性や安全性を重視した機器の導入



### ▲薬品カート

アンブルピッカーで準備された注射薬は、専用の薬品カートにセットして、各病棟へ払い出されます。新しい薬品カートは今より軽くて静かです。操作しやすいハンドル(グリップ)もついて、病棟へ運搬する際の負担が軽減されます。



### ▲アンブルピッカー

注射薬アンブルピッカーを導入します!アンブルピッカーとは、注射薬を機械で正確に、1回分ずつトレイに取り分けて準備を行うための機器です。現在は、薬剤科で注射箋を出力して1枚(1人分)ずつ手作業で取り揃えています。アンブルピッカーを導入することでこの作業が簡略化され、より早く正確に準備を行うことができます。投薬に関する安全性や妥当性はこれまで通り薬剤師によるチェックを行います。



### ▲4分割方式トレイ

アンブルピッカーでは4分割での払い出しが可能となり、患者ごと、1施用ごとに分けて払い出すことができます。これにより、病棟での仕分けと監査の作業が簡単になります。つまり、看護師の手間が減ります!



### ▲トレイの側面

電子ペーパー式のネームカードが取り付けられ、患者情報・病棟・施用日・「臨時/緊急」などの表示が可能になります。

Point 4

## 広く収納量を確保した薬剤庫

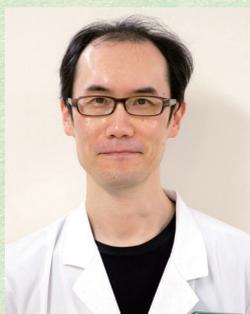
新病院では、薬剤庫の面積を大きく取っています。これまで大量に在庫を抱える必要がある際には、倉庫に入りきらないこともありましたが、新病院では薬剤部内ですべて保管できるようになり、医薬品管理上望ましい形となります。

さらなる安心を

ひとことリレー

NO.08

Otemachi Hospital



薬剤科科長 白井 薫

新大手町病院竣工に向けて、  
新病院にかける意気込み・各部門の特徴を紹介します!

これまでの薬剤師の仕事は、医薬品という「物」を扱う仕事の配分が大きかったのですが、近年は患者さんや他医療スタッフなど「人」に関わる仕事が増えてきています。大手町病院でも、病棟での服薬指導や感染・緩和・栄養などのチーム医療など入院部門での関りを発展させてきました。

新病院では、これまで以上に医薬品の安全な提供環境を整えていくとともに、患者さんや他スタッフへの関りも深めていく予定です。薬剤師としての職能を生かし、「人」に関わりを深め、適切な薬剤治療が行える環境を整えて行きます。